

読誦し書写し供養せんことを聴したまわば、**当に此の土に於て広く之を説きたてまつるべし。爾の時に**  
 仏、諸の菩薩摩訶薩衆に告げたまわく、**止みね善男子、汝等が此の經を護持せんことを須いじ**」等云云。  
 法師より已下の五品の經文前後水火なり。宝塔品の末に云く、「大音声を以て普く四衆に告げたまわく、  
 誰か能く此の娑婆国土に於て広く妙法花經を説かん」等云云。設い教主一仏為りと雖も之を將勸したまわ  
 ば、薬王等の大菩薩・梵・帝・日月・四天等は之を重んずべきの処に、多宝仏・十方の諸仏、客仏と為  
 りて之を諫曉したまう。諸の菩薩等は此の懇懃の付属を聞きて「我不愛身命」の誓言を立つ。此等は偏  
 に**仏意に叶わんが為なり。而るに須臾の間に仏語相違して、過八恒沙の此土の弘經を制止したまう。進**  
 退惟れ谷まる。凡智に及ばず。**天台智者大師、前三後三の六積を作りて之を会す。所詮、迹化・他方の**  
**大菩薩等に、我が内証の寿命品を以て授与すべからず。末法の初めは、謗法の国にして惡機なるが故に**  
**之を止め、地涌千界の大菩薩を召して、寿命品の肝心たる妙法蓮花經の五字を以て閻浮の衆生に授与せ**  
**しめたまうなり。又迹化の大衆は釈尊の初発心の弟子等に非ざるが故なり。天台大師云く、「是れ我が弟**  
**子なり、応に我が法を弘むべし」。**妙樂云く、「子、父の法を弘む、世界の益有り」。輔正記に云く、「法  
 是れ久成の法なるを以ての故に、久成の人に付す」等云云。又弥勒菩薩疑請して云く、經に云く、「我等  
 は復仏の隨宜の所説、仏の所出の言、未だ曾て虚妄ならずと信じ、仏の所知は皆悉く通達すと雖も、然  
 も諸の新発意の菩薩、仏の滅後に於て若し是の語を聞かば、或は信受せずして法を破する罪業の因縁を  
 起さん。唯願世尊、願わくは為に解説して我等が疑を除きたまえ。及び未來世の諸の善男子、此の事を